第３章

米中バランスに苦慮する韓国財閥

――「安米経中」から「安米経米」へ

日本経済新聞　国際部長　前ソウル支局長

鈴木　壮太郎

【ポイント】

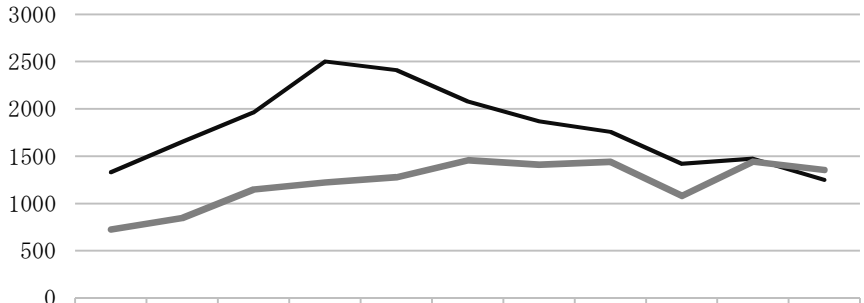
- 米中対立の先鋭化は韓国財閥の中国事業に暗い影を落とす。ロッテグループは中国のスーパー事業から撤退した。中国が一大消費市場であり、生産基地である製造業も事業の再構築を模索する。現代自動車は中国工場売却など、過剰生産能力の解消に動く。韓国企業の中国事業の売上高は 2013 年の 2502 億ドル（約 28 兆 8000 億円）をピークに、20 年は 1252 億ドルまで減少した。

- 一方で米国の戦略的価値は高まる。17 年から韓国の最大の直接投資先が米国となった。半導体や電気自動車（ＥＶ）向け電池などの販売拡大で、20 年の米国事業の売上高は中国を抜いた。韓国は「安米経中」（安全保障は米国、経済は中国）といわれてきたが、じわりと「安米経米」に傾きつつある。

- 部品・素材に強い日本企業と、完成品が強い韓国企業は水平分業関係にあり、運命共同体といえる。米中衝突によるデカップリング（分断）への対処は日韓共通の課題だ。中国に依存する重要資源の共同開発や、東南アジアなど中国以外の地域での製造基盤強化など、日韓の企業が連携できる余地は大きい。

注目データ

韓国企業の中国・米国事業売上高の推移（単位、億ドル）



	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
中国	1331	1654	1965	2502	2412	2080	1870	1758	1420	1475	1252
米国	727	846	1150	1223	1279	1457	1409	1439	1082	1445	1354

資料：韓国輸出入銀行「海外直接投資の経営分析」